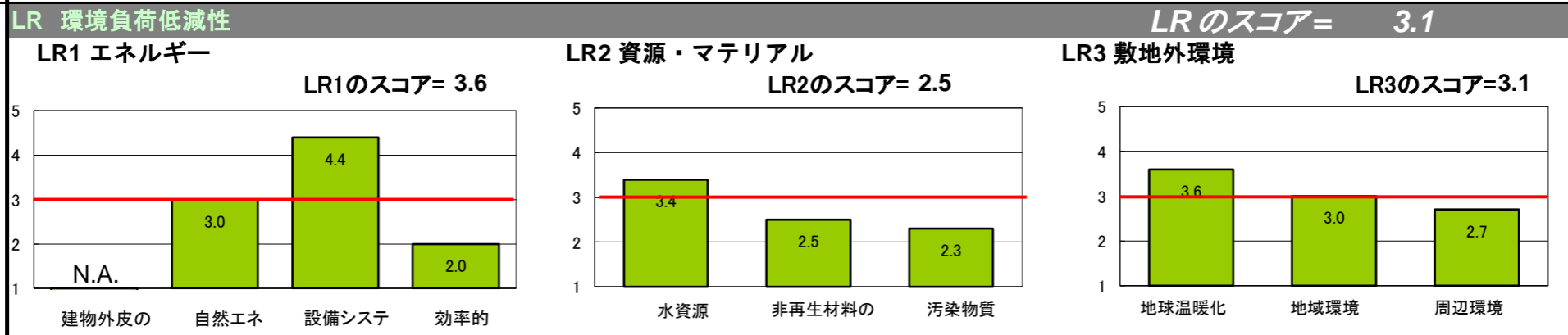
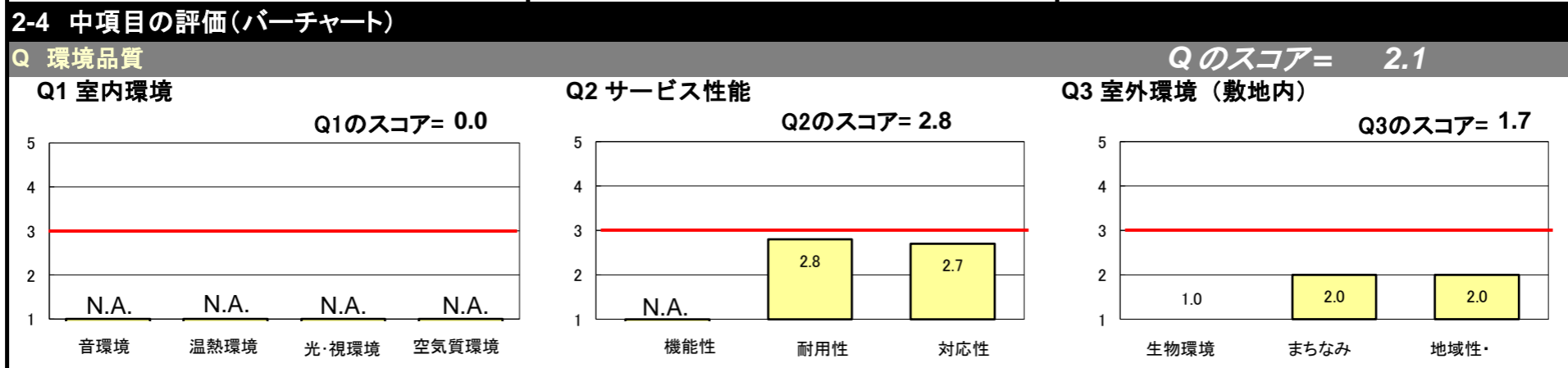
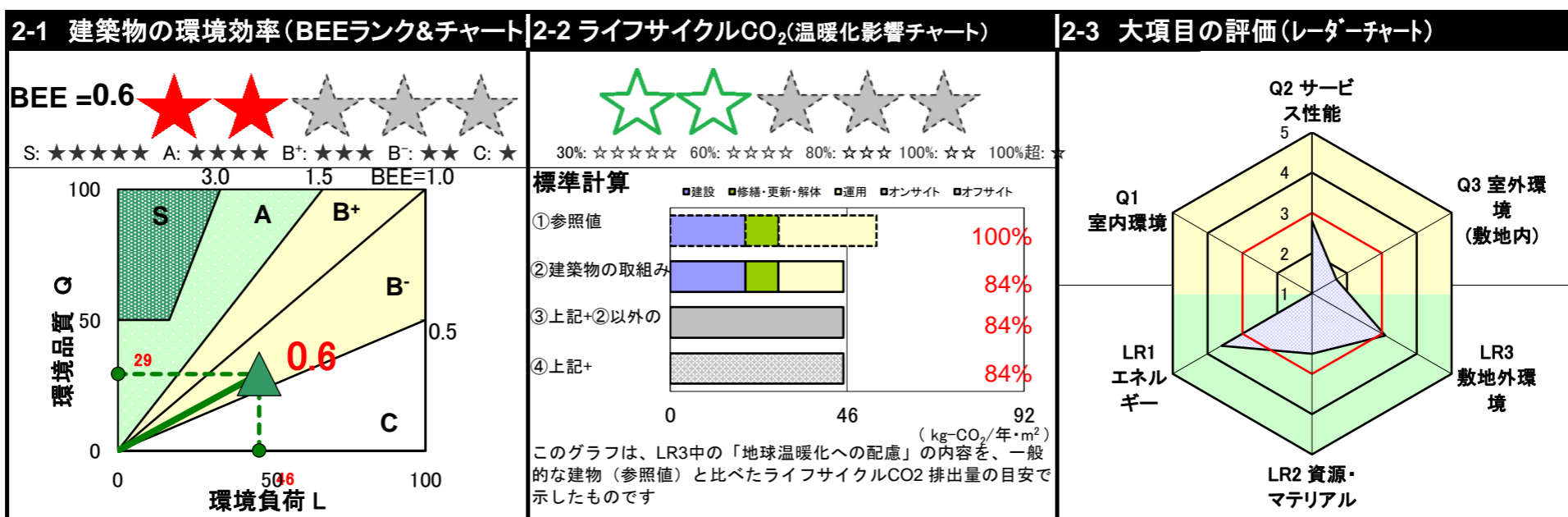


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社スリーエス物流本社営業所第三センター	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市丹陽町九日市場字上田80番～93番、136番、137番、140番～148番	構造	S造
用途地域	準工業地域 法22条区域	平均居住人員	230人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年8月7日
敷地面積	12,761 m ²	作成者	林 尚生
建築面積	6,228 m ²	確認日	2020年8月7日
延床面積	11,598 m ²	確認者	山中 幹根



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>9.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.6</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				0.4	2.7	0.48	-	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり				0.3	2.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		シンプルな形状	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	2.6	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	1.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			効率の良い機器の採用	3.0	4.4	0.63		-	-	4.4
4 効率的運用				0.2	2.0	0.25		-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			省水型機器(擬音)	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63		-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.3	0.22		-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.0	0.68		-	-	
1	消火剤				-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				-	-		-	-	
3	冷媒			3.0	2.0	1.00		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%		3.6	0.33		-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐車場、駐輪場の確保		5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33		-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自			-	-		-	-	
3	悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				1.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:9.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外部は単純な建物形状とし景観を損なわないようにした。事務所内部は設備等の更新がしやすいようにOAフロアとした。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務空間としては十分な広さを確保し、天井高さも事務所部分で2.5m以上を確保することで広さ感は十分ある。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物形状を単純にし、敷地外周廻りに緑地帯を設けて、周囲への調和を考慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 モデル建物法により、BEIm=0.66となり、1以下としている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 大便器に擬音装置を採用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に駐車場を確保することで路上駐車を発生させないようにした。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。